

令和7年度 学校評価  
自己評価及び学校関係者評価

学校名	片柳小学校
実施日	令和8年2月3日

○「自己評価」及び「学校関係者評価委員会評価」の欄には、A～Dを記入してください。

評価 A：よくできている B：概ねできている C：あまりできていない D：できていない

○「自己評価についての評価の説明及び学校の考え」の欄には、理由及び自己評価の結果をどのように受け止めているかを記入ください。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
組織・運営	1	本校は、目指す学校像の実現に向け、組織的・計画的に取り組んでいる。	B	・グラウンドデザインが周知され、様々な職員研修を行っている。 ・チーム別研修や学びづくり研修など多くの研修をすることで教員同士で協力したり、自分の力を高めたりしている。	A	・校長先生をはじめ、先生方も大変努力をされているように見える。 ・保護者及び教職員の現状を「単に把握し、エビデンスを参考にした学校づくりを取り入れている様子」がうかがえる。 ・概ね良好
	2	本校は、災害や事故等に対する組織的な体制を整えている。	B	・学校防災マニュアルが作成されていて、職員室や保健室に掲示してある。 ・不審者だけでなく、災害時の教員の動き方の研修をいれてもいいかもしれない。 ・避難訓練の定期的な実施、夏休みに実施していただいた不審者対応研修などがあるため。	A	・ある程度指導しているが、自転車ヘルメットの着用をしていない児童がいたら、注意してもいいか。 ・児童等への予告なしの訓練を実施していることがうかがえる。越辺川の河川決壊を想定した訓練を検討してもいい。 ・定期的に避難訓練を実施している。
	3	本校は、働き方の改善を推進している。	C	・所見、会計報告の負担。研修の多さ。 ・調整時間を設定せざるを得ない研修などが依然としてみられる。時間内でできることを精査し私たちの勤務と個人の時間を大切にできるもえる職場環境に変えていけるべきである。 ・ふれあいデー、ノー残業デーで働けないことが多い。業務を精査し、負担軽減が必要だと感じる。 ・学級事務や教材づくりの時間をもう少し確保してほしい。 ・研修が充実しているのはいいが、時間が長い。 ・年休がとりにくい。 ・1学期と変わっていないと思います。働き方を改善するのであれば、行事や業務の選定や改善をする必要があると思います。「早く帰ろう」という言葉がけだけでは何も変わりません。担任の仕事（成績処理等）が忙しいときに放課後の見回りやインターホン対応、電話対応などを教務部の先生方に協力していただけたらとありがたいです。	B	・どこ職場でも働き方改革は中々できていないようで、個々で考えていかなければならないのでは。 ・子供たちとの直接の関わりを持って時間を充実させることが改革の一手だと考える。単なる時間は教育効果は薄れると考える。 ・働き方改革の意識は教職員の間で共有されつつある一方で「実質的な改善につながらない」と感じる声が多い。短期的な取組は進んでいるものの、中長期的なビジョンを共有することで教職員の負担軽減と教育の質の向上につながるかと考える。例えば業務を棚卸し、必要性や実施方法を可視化することで見直しや支援可能な領域が明確になる。 ・保護者とのやり取り（電話対応等）を様々な方法で管理職との共有を図る。
教育課程・学習	4	本校は、主体的・対話的で深い学びのある授業づくりに取り組んでいる。（市重点項目）	B	・学びづくりの観点から授業改善をしているため ・学びづくり研究会や学校研究等を通して、本校は、主体的・対話的で深い学びのある授業作りについて学んでいる。管理職の先生方や教務主任の先生方に授業を見に来ていただき、具体的にご指導いただけたらと授業の向上に期待がある。 ・学力の実態をみると現在の方向が最適であるかを早々に検討する必要がある。	A	・ペアやグループでの授業は協力できる場所もあると思うが、集中できない場所もあるのではないかと、1回目の授業参観の時はあまりにもばらばらの感じがしたので4回目になったらとも良かった。 ・授業場面に応じたレイアウトや学習スタイルを工夫している。思考、判断、表現を意欲した授業を上級生を中心に引き続き行ってほしい。 ・教材等の工夫が見られる。
	5	本校は、豊かな心を育む教育の充実を図っている。	B	・道徳教育、多様な体験活動、ボランティア活動を通して、喜びや自己有用感を育む活動ができている。 ・道徳の研修もあり、豊かな心をはくむ教育の充実に向かっていていると思います。 ・全職員で全校児童の対応を行っているので	B	・片小は児童数があまり多くないので児童がのびのびとよところもあるが、挨拶ができていない。学校だけではなく家庭の躾も重要ではないか。 ・授業内でも助け合いや意見調整や合意形成を子供たち主体でやっている。挨拶は学校だけでなく、家庭や地域の力も必要だと感じる。 ・道徳の授業等、様々な指導をされている。
資質の向上	6	本校は、体罰や交通事故等の不祥事を根絶するための効果的な取組を実施している。（市重点項目）	A	・根拠よく子供たちと向き合う姿が頻りにみられる。 ・定期的に倫理確立委員会を行い、教育公務員としての自覚を再確認する研修が行われているから。 ・倫理確立委員会を開いていただき、教員同士で話し合うことにより、みんなで気を付けようという意識が高まっている。	A	・前任校で不祥事があった学校の先生に話をさせていただくと、学校の権用のため、絶対に不祥事がない風土に効果があった。 ・倫理確立委員会を開催する等、積極的な姿勢に好感が持てる。
	7	本校は、不登校の未然防止や課題解決のための取組を実施している。（市重点項目）	B	・学校側の思いが保護者に伝わらないのを感じる。 ・欠席が多い児童に対して、家庭に連絡をとっている。 ・ケース会議が開かれたり、気づきを利用し児童の情報共有がされている。 ・にこにこルーム（SSR）の設置。 ・全体周知ができていないので、欠席状況や児童の様子について知らせていく。	A	・不登校の児童に対しては、学校や家庭との共有が大切。また、児童相談所との連携も視野に入れてみたらどうか。 ・個に応じた支援を行っている様子がうかがえる。子供たちの主体性を育む教育活動が行われている。 ・教職員間でしっかりと情報共有を行い取り組んでほしい。
学習環境	8	本校は、特別支援教育の充実を図っている。（市重点項目）	B	・一部の児童に付き切りになっている。ここは改善するべきところだと思 ・教職員が、情報を共有している。 ・担任の先生が、それぞれのクラスで個別に支援が必要な児童と向き合っている。交流級の先生方が特別支援の児童を快くクラスに招いてくださる雰囲気が良い。 ・特別支援学級の担任から、専門的に教えていただき、指導に生かせる。	A	・特別支援の児童に対して先生方はよく見ていると思う。児童の個人差があるので先生方も大変だと思う。 ・目標の高さを含めて、寄り添い、時に子供に任せながら場面による指導の工夫が見られる。 ・複数の教職員で対応しているので充実した対応が行われている。
家庭・地域との連携	9	本校は、積極的な家庭・地域等と連携・協働している。	B	・地域イベントの参加などにも積極的だと思う ・田植えなど地域と連携して、児童の指導をおこなっている。 ・学習の中で地域や家庭のボランティアが入っていたり、田植えなど地域の中での学習も実行しているため。 ・保護者の学校への関心が強い。 ・応援団、ボランティア、坂戸高校など関わりが深い。	A	・児童も田植えは楽しかったと言っていた。これからは地域との交流を大切にしていきたい。 ・ミンソンの授業で保護者ボランティアが参加していた。坂戸高校とも引き続き積極的な連携をしていきたい。 ・保護者のボランティア活動がよい雰囲気を出している。
小中一貫教育	10	本校は、小中連携を推進している。	C	・今年の取り組みをみると、連携の焦点がすりかわられていないと感じた。職員の顔を知ったり学校を知るといって、個人的には有効であったが、来年も同じ形式で実施するなら実施の意義は感じにくい。連携を推進する意義を再考すれば、実施時期、どの職員が参加すべきかといった規模などが自然に見つけられると考えられる。 ・小学校の児童の様子、中学校の生徒の様子を共有できる時間があると良いのではないかと感じる。 ・小中連携で話し合いをもっているのが良いと思った。 ・中学校との連携がうまくいっていないと思うため、これからあるのかもしれないが、中学校の教師が小学校に来て、授業をするなどあっていいと思う。	B	・小中連携の中身はあまりわからない。交流をするのは大切だと思う。 ・距離的に難しい部分もあるが、出前授業等で少しでも中学校の様子が見られるといいと思う。